

7. 本田財団の資産～目指すもの

[総資産額] 1977年度:7億円⇒
1984年度:41億円(Hondaからの資金的援助終了)⇒
2006年度:42億円(Hondaの株式と債券)

ヒト: 理事14名 + 監事2名 + 評議員18名
(常勤=常務理事を除き無給)

Honda外の学識者

～日本の各分野のTOPクラスの頭脳とネットワーク

国際シンポジウム等を通じた2国間ネットワーク・他財団
事務局5名(Honda出向者2名、職員2名、業務委託1名)

Honda現地法人(ベトナム・インド)、経済界(インドCII)

政府科学技術振興機関(ベトナム、タイ、カザフスタン)、

YES協力大学(ベトナム、インド、ラオス、カンボジア)

CJCC、LJC、JICA(ミャンマー)、日本大使館、APO

財団HPや口コミ⇒国際機関(アフリカ、アジア、EU、北米)

～将来の協力関係への期待

モノ: 固定資産ナシ

力ネ: 総資産48億円 (予算規模3億円・年間運用実績6.25%)

● 海外での事業・活動が多い日本の本田財団は…

「2国間関係・人的ネットワーク(インフラ)を広げる着火役になりたい」

「(Hondaというより)日本の存在感を高める一助になれば」

「若者の科学技術の眼、将来の夢を育てたい」

● 運営方針は…

「自ら手を汚してやる」

～YES受入先発掘、成田送迎、宿泊先手配、心身の見受け人

「頼らないが、人的資源に感謝し、協力を遠慮なく仰ぐ」

「規模は関係ない、インパクトと浸透力が大事」

「ネットワークの広がりが将来の発想・行動に結び付く(と信じる)」

● 望めるなら…

1)ワン・ストップ・ショップ(サービス)窓口

　現地と本省の協力による制度としてのサポート

2)速やかなVISA発給

3)現地でのイベント参画

4)その他

ありがとうございました

